

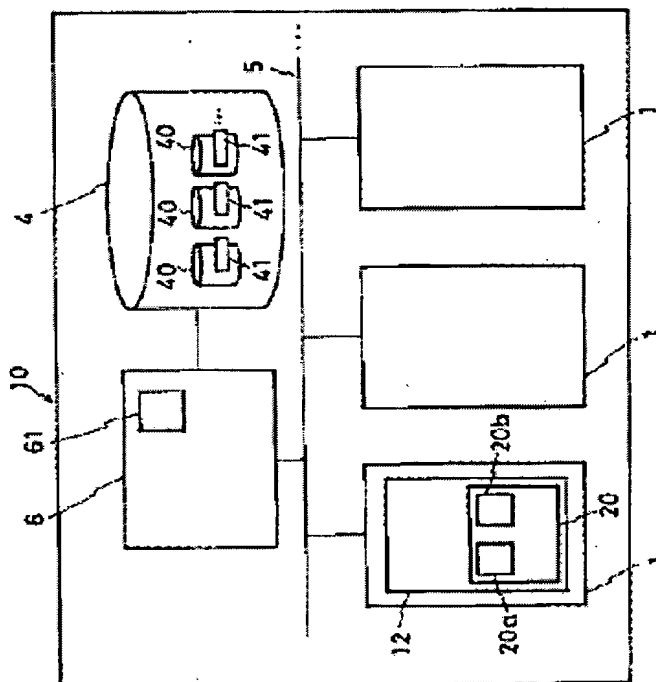
**JOB PROCESSOR HAVING ADDITIONAL MENU FUNCTION**

**Patent number:** JP2001166926  
**Publication date:** 2001-06-22  
**Inventor:** WADA SHIGEFUMI; NAKAYAMA SHIGERU;  
TAKAHASHI TOMOHISA; KIMURA KENJI; SAKAMOTO  
CHIKA  
**Applicant:** OBIC BUSINESS CONSULTANTS LTD  
**Classification:**  
- international: **G06F3/00; G06F9/06; G06F9/445; G06F3/00;**  
**G06F9/06; G06F9/445; (IPC1-7): G06F9/06; G06F3/00**  
- european:  
**Application number:** JP19990348074 19991207  
**Priority number(s):** JP19990348074 19991207

Report a data error here

**Abstract of JP2001166926**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a job processor capable of easily operating an additional menu by adding the menu item of the menu bar of a job processing application.  
**SOLUTION:** An additional folder is prepared in a folder in which a task processing application is set up, and an additional menu definition file related with the contents of the additional menu is set in the folder, and at the time of starting the task processing application, the additional menu definition file is read, and the menu bar of the application is allowed to have the additional menu function.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-166926

(P2001-166926A)

(43) 公開日 平成13年6月22日 (2001.6.22)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>		識別記号	F I		テームト* (参考)
G 0 6 F	9/06	4 1 0	G 0 6 F	9/06	4 1 0 S 5 B 0 7 6
		5 3 0			5 3 0 P 5 E 5 0 1
	3/00	6 5 4		3/00	6 5 4 B

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-348074

(22) 出願日 平成11年12月7日 (1999.12.7)

(71) 出願人 593089895

株式会社オービックビジネスコンサルタン  
ト

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号

(72) 発明者 和田 成 史

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービック・ビジネス・コンサルタン  
ト内

(74) 代理人 100093399

弁理士 瀬谷 徹 (外2名)

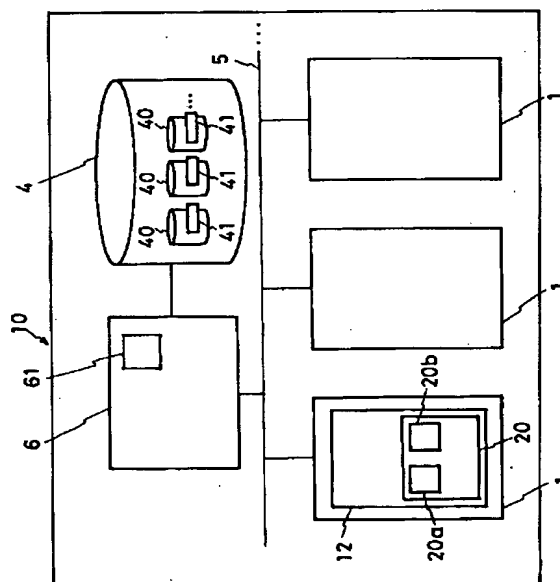
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 追加メニュー機能を有する業務処理装置

## (57) 【要約】

【課題】 業務処理アプリケーションのメニューバーのメニュー項目は通常追加することはできない。この追加メニューを容易に行える業務処理装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 業務処理アプリケーションがセットアップされているフォルダ内に追加フォルダを作成し、そのフォルダ内に追加メニューの内容に関する追加メニュー定義ファイルを設け、そのアプリケーションの起動時に、それを読込んでメニューバーに追加メニュー機能を持たせる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 企業のコンピュータシステムでアプリケーションプログラムによる業務処理を遂行中に、そのプログラムが必要とする予め定められた所定数の実行ファイル群を随時呼出して実行できるようにするため、その実行ファイル群のメニュー項目を表示画面のウインドウ枠に平行に設けたメニューバーに表示し、そのメニュー項目の一つを選択すれば当該ファイルを呼出し実行させる手段を備えた業務処理装置において、

前記メニュー項目にそれ以外の実行ファイルを呼出するための1以上の追加メニュー項目を加え、その追加メニューを選択すれば当該ファイルを実行可能にするために、前記アプリケーションプログラムのセットアップ時に作成されたフォルダ内に追加メニューフォルダを作成し、その中に前記追加メニュー項目の内容を定義する追加メニュー定義ファイルと、その追加メニュー定義ファイルから前記メニューバーのメニュー項目に加えるメニュータイトルとそのメニュータイトルを選択したときドロップダウンメニューに表示される追加メニュー名群とを読み込んで、メニューバーに表示すると共に、それら追加メニューが選択されたとき当該ファイルを呼出し実行させる追加メニュー表示・呼出実行ファイルとを備えることを特徴とする追加メニュー機能を有する業務処理装置。

【請求項2】 前記追加メニュー定義ファイルは、テキストファイル形式であって、その各行は改行マークで区切られ、第1行目は前記メニュータイトルを記述し、第2行以後は各行毎に少なくとも追加メニュー名と、フルパスを含めた実行ファイル名と、当該ファイルをアクセス中に、同一の端末機からの他のメニューを開けるか否かの設定を行う排他フラグとを所定の区切りマークで区切られて記述されていることを特徴とする請求項1記載の追加メニュー機能を有する業務処理装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はコンピュータシステムで業務処理を行うとき、その表示画面のメニューバーにある既存のメニュー項目にユーザが容易に追加メニューを追加し、それを選択すればそのファイルを呼出して実行する追加メニュー機能を有する業務処理装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】企業のコンピュータシステムで市販されているアプリケーションプログラムにより業務処理、例えば販売管理或は仕入・在庫管理などのアプリケーションを用いて業務処理を行う場合、表示装置の表示画面ウインドウ枠上端に平行に表示されたメニューバーのメニュー項目は、それぞれのアプリケーションによって予め決っている。

【0003】ユーザはこれに新規メニューを追加するこ

とはできないのが通常であった。従って例えば、販売管理アプリケーションでデータの入出力などの作業を行っている途中で、別の画面やファイルでの入出力を行いたい場合は、販売管理アプリケーションとは別の当該アプリケーションを別途用意するという形態になってしまっていた。より具体的な例を挙げれば、販売管理アプリケーションを用いた業務処理中に、関連するユーザ独自の業務管理アプリケーションの画面確認や、入力を行う必要がある場合に別途にユーザ独自の業務管理アプリケーションを個別に呼び出さなければならず、関連処理がもれてしまうなどの問題があった。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は前述した点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは会社のコンピュータシステムを用いて業務処理を遂行中に、表示画面のメニューバーのメニュー項目以外の追加メニューが必要となる場合は、予めそれらの追加メニューを記述したファイルをユーザが作成すれば、システムはそのファイルからメニューバーにそのメニュー名を表示し、それを選択すればその当該ファイルを実行する追加メニュー機能を有する業務処理装置を提供するものである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、本発明の追加メニュー機能を有する業務処理装置は、企業のコンピュータシステムでアプリケーションプログラムによる業務処理を遂行中に、そのプログラムが必要とする予め定められた所定数の実行ファイル群を随時呼出して実行できるようにするため、その実行ファイル群のメニュー項目を表示画面のウインドウ枠に平行に設けたメニューバーに表示し、そのメニュー項目の一つを選択すれば当該ファイルを呼出し実行させる手段を備えた業務処理装置において、前記メニュー項目にそれ以外の実行ファイルを呼出するための1以上の追加メニュー項目を加え、その追加メニューを選択すれば当該ファイルを実行可能にするために、前記アプリケーションプログラムのセットアップ時に作成されたフォルダ内に追加メニューフォルダを作成し、その中に前記追加メニュー項目の内容を定義する追加メニュー定義ファイルと、その追加メニュー定義ファイルから前記メニューバーのメニュー項目に加えるメニュータイトルとそのメニュータイトルを選択したときドロップダウンメニューに表示される追加メニュー名群とを読み込んで、メニューバーに表示すると共に、それら追加メニューが選択されたとき当該ファイルを呼出し実行させる追加メニュー表示・呼出実行ファイルとを備えることを特徴とする。

【0006】また、前記追加メニュー定義ファイルは、テキストファイル形式であって、その各行は改行マークで区切られ、第1行目は前記メニュータイトルを記述し、第2行以後は各行毎に少なくとも追加メニュー名

と、フルパスを含めた実行ファイル名と、当該ファイルをアクセス中に、同一の端末機からの他のメニューを開けるか否かの設定を行う排他フラグとを所定の区切りマークで区切られて記述されていることを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明の追加メニュー機能を有する業務処理装置10を図1に示す。ここで、1は複数のコンピュータ端末機、4はデータベース管理装置、5はローカル・エリア・ネットワーク（LAN）、6はサーバ機である。

【0008】データベース管理装置4には業務処理に必要な各種のデータベース40があり、それぞれ例えば顧客マスタテーブルなどのテーブル群41が収納されており、それらデータベース40をサーバ機6のデータベース管理プログラム61が制御している。

【0009】端末機1はそれぞれ市販のオペレーティングシステム（OS）で制御され、それぞれ業務処理のためのアプリケーションプログラム12がロードされている。例えば販売管理或は仕入・在庫管理アプリケーションなどである。さらに、アプリケーションプログラム12の中には追加メニュー機能を付与するためのデータとプログラムファイル20がロードされており、20aは追加メニュー項目の内容を定義する追加メニュー定義ファイルであり、20bはその追加メニュー定義ファイル20aからメニューバーのメニュー項目表示に加えるメニュータイトルとそのメニュータイトルを選択したときドロップダウンメニューに表示される追加メニュー名群とを読み込んでメニューバーに表示すると共に、それらの追加メニューが選択されたとき、当該ファイルを読み出し実行させる追加メニュー表示・呼出実行ファイルである。

【0010】すなわち、業務処理装置10に追加メニュー機能を付与するに際しては、予め前記追加メニュー定義ファイル20aにメニュータイトルとそのメニュータイトルを選択したとき表示する追加メニュー名を記述しておけば、追加メニュー表示・呼出実行ファイル20bにより、メニューバーにそのメニュータイトルが追加されて表示され、それをクリックすれば記述しておいた追加メニュー名群が表示される。

【0011】図2（a）（b）は表示ウインドウの上端の枠に平行なメニューバーのそのような表示の状態を示したものである。ここで（a）は追加メニュー機能を付与する前のメニューバー21であり、（b）は追加メニュー機能が付与された後のメニューバー22を示す。ここで、メニュータイトル23の「追加メニュー（A）」をクリックして、追加メニュー名24の「追加メニュー1」、「追加メニュー2」……「追加メニュー10」を表示したドロップダウンメニュー25の状態を示す一実施例である。

【0012】なお、図3（b）には追加メニュー定義フ

ファイル20aの記述例の一実施例を示す。図3（a）に説明してあるように、第1行目はメニュータイトル、第2～11行目はそれぞれ各行毎に一つずつ追加メニューを記述する。この実施例では従って、追加メニューは10個以内である。記述はテキストファイル形式であって、各行は改行マークで区切られる。第2行以後はそれぞれ追加メニュー名と、実行ファイル名と、当該ファイルをアクセス中に他の端末機1すなわち、他のクライアントから同一データベースにアクセスするメニューを開いてよいか否かを設定する排他フラグとを所定の区切りマーク、この実施例ではカンマで区切られて記述する。第2行以後の各行にはコメントを付してもよい。

【0013】ここで、実行ファイルが、アプリケーション12のあるフォルダの外にあるときは、その実行ファイルの前にフルパスを付ける。図3（b）の追加メニュー1はその場合を示す。例えば、図1でサーバ機4にあるアプリケーションを呼出したいときは、そのフルパスを追加メニュー定義ファイルに記述すれば呼出すことができる。

20 【0014】次に、本発明の追加メニュー機能を有する業務処理装置10の動作の流れを図4で説明する。

【0015】業務処理アプリケーション12をセットアップするとき、その時点における、そのアプリケーション12と同一フォルダ内にある追加メニュー定義ファイル20aから追加メニュー表示・呼出実行ファイル20bがメニュータイトルと追加メニュー名群を読み取る（S41）。

30 【0016】次に、メニューバー21に新規にメニュータイトル23を入れた状態のメニューバー22で表示する（図2（b）参照）（S42）。

【0017】ここで、メニュータイトル23を選択すれば（S43）、ドロップダウンメニュー25が表示され、その中にユーザが記述した追加メニュー群24が表示される（S44）。

40 【0018】次に、追加メニュー24の一つが選択されれば（S45）、次に、その追加メニューすなわちその実行ファイルに排他フラグが設定してあるかを調べ、排他ならば、同一の端末機が排他メニューを実行しているかを調べ、実行しているならば呼出しを中止し、それ以外の場合のみ次のステップに進みそのファイルを実行する（S46、S47）。ここで、同一フォルダ内にファイルがないときは、そのパスを調べてフォルダ外でそのファイルを検索し、あれば呼出し実行させる。

【0019】

【発明の効果】本発明の追加メニュー機能を有する業務処理装置は以下のような効果を奏する。ユーザは現在使用している業務処理アプリケーションのメニューバーのメニュー項目に容易に追加メニュー項目を加えることができる。すなわち、追加メニュー定義ファイルに、予め

50 定めた記述書式によりテキスト形式で記述し、その業務

処理アプリケーションのフォルダにそのファイルを書込んでおくだけで追加メニューを増やすことができる。また、追加メニューを変更したいときは、その追加メニュー定義ファイルを書換えて、セットアップしなおせば、直ちに変更することができる。また、業務処理装置で同一のコンピュータ端末機で、他の実行ファイルを呼出し、不都合が生じないように排他フラグを使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の追加メニュー機能を有する業務処理装置のブロック図である。

【図 2】(a) は追加メニュー機能のない通常のメニューバー、(b) は本発明の追加メニュー機能を有するメニューバーを示す図である。なお (b) は追加メニューのタイトル名をクリックしてドロップダウンメニューを開いた図である。

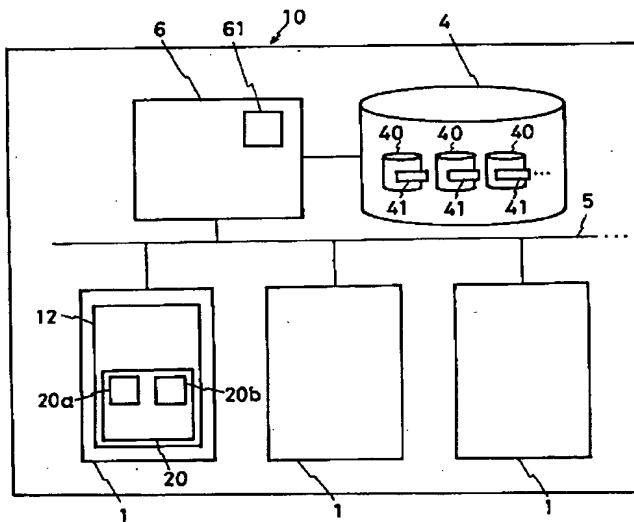
【図 3】(a) は本発明の追加メニュー定義ファイルの内容を示し、(b) はその記述例を示す図である。 \*

\* 【図 4】本発明の業務処理アプリケーションの流れを示す図である。

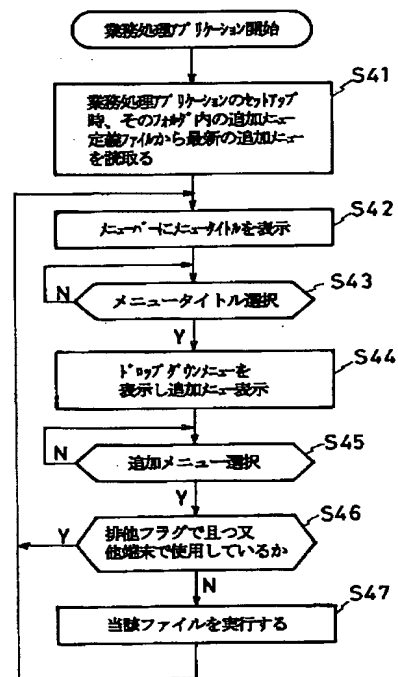
【符号の説明】

- 1 端末機
- 4 データベース管理装置
- 5 LAN
- 6 サーバ機
- 10 追加メニュー機能を有する業務処理装置
- 12 業務処理アプリケーション
- 20a 追加メニュー定義ファイル
- 20b 追加メニュー表示・呼出実行ファイル
- 21, 22 メニューバー
- 23 メニュータイトル
- 24 追加メニュー
- 25 ドロップダウンメニュー
- 40 データベース
- 41 テーブル
- 61 データベース管理プログラム

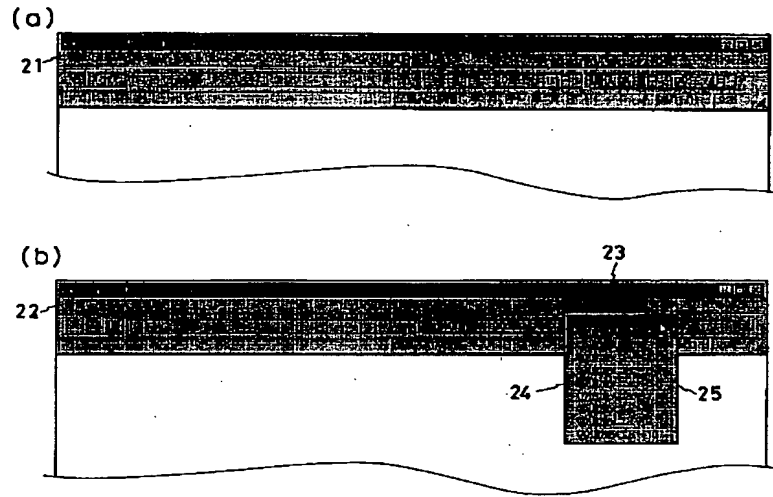
【図 1】



【図 4】



【図2】



【図3】

(a)

項目名	最大行数	説 明
メニュー タイトル	20	メニューバー上に表示する追加メニュー専用のメニュータイ トル
改行	-	改行マーク

2～11行目

項目名	最大行数	説 明
メニュー名	30	追加メニュー用のドロップダウンメニュー内に追加するメ ニューアイテム名
項目区切り	1	半角カンマ(,) 1個
実行ファイル名	264	該当メニューを選択した際に呼び出される実行ファイル名
項目区切り	1	半角カンマ(,) 1個
排他フラグ	1	該当メニューを起動中に、同じクライアントの中で既存メ ニューを開けるか(非排他) 否か(排他) を設定 0...非排他 1...排他
項目区切り	1	半角カンマ(,) 1個 後ろにコメントを記述する場合のみ必 要
コメント	自由	コメント前の項目区切り～改行の間は自由に利用可能
改行	-	

(b)

追加メニュー定義ファイルの記述例

追加メニュー(AA)	改行
追加メニュー-1, E:\F0507D\F0507D\COMMON\111.EXE, 1	改行
追加メニュー-2, 222.EXE, 1, メニュー-2についてのコメントなど	改行
追加メニュー-3, 333.EXE, 0, メニュー-3についてのコメントなど	改行
EOF	

フロントページの続き

(72)発明者 中 山 茂

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービック・ビジネス・コンサルタン  
ト内

(72)発明者 高 橋 知 久

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービック・ビジネス・コンサルタン  
ト内

BEST AVAILABLE COPY

(72)発明者 木 村 謙 二

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービック・ビジネス・コンサルタン  
ト内

(72)発明者 坂 本 千 夏

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービック・ビジネス・コンサルタン  
ト内

F ターム(参考) 5B076 AA12 AB17 DC02

5E501 AC08 BA05 EA05 EA10 EB01

EB05 FA05 FA06